

第47回全国学校新聞 指導者研修会 第1日目

速報

発行所
高文連石狩支部
新聞部速報班
不許複製

13年ぶりの札幌

語り合おう、

高校生の心と新聞作りの悩み

八月四日、札幌市中央区の北海道新聞社で第四十七回全国学校新聞指導者研修会が始まった。研修会には北海道から十五人、東北から三人、関東から九人、中部から一人、近畿から九人、中国から三人、九州から三人、その他の団体が六人の計四十九人が参加。四国・琉球地方からの参加はなかった。



記念講演で熱弁をふるう濱保久先生



松井孝二会長

四日は、十三時から、全国高等学校新聞教育研究会(全高新)会長の松井孝二氏の開講挨拶で研修会がスタートした。十三時十分から、北星学園大学社会福祉学部助教授の濱保久氏の講演が行われた。講演は、「高校生の悩みとコミュニケーション」と題するもので、現代の高校生は話題が噛み合わず、話す能力はあるが聞く能力がないし論理的な話しは通じないことなどを話し、またプリント倶楽部の

交換や「ベル友」を例に挙げ、今の高校生は「浅く広く」の友人関係を求めていることを述べた。

熱く語るパネリスト達

その後、研究座談会「語り合おう、高校生の心と新聞作りの悩み」が二時間三十分におたつて行われ、北海道新聞社編集局・杉本和弘さん、北海道札幌旭丘高・武田克伸先生、神奈川県白山高・河越弘



写真・左より
武田氏、河越氏、杉本氏、
藤井氏、武山氏

白山高校教諭河越弘子氏は新聞作りにかかわる中で、変質していく高校生について述べた。さらに、パネリストの発表を受けて一般参加者も交えて熱心な討論がなされた。

濱講演を聞いて 参加者の感想

濱保久氏の講演の感想を参加者の方に語っていた。北海道札幌平岸高校對馬順哉先生「廊下を歩くと、連れだつた女の子はまず『道を譲って』はくれない。こちらが身を小さくして衝突を回避するのが常だ。なるほど、これは彼女らにとって所詮私は『風景』に過ぎず、彼女らに世界の一部と見なされてなかつたのだ。濱氏の講演を拝聴しなければ、まさに『MK5』だつたのだが納得」。神奈川県立秦野高校毛利淳夫先生「二十歳以下は『超人類』、ひとり一人バラバラ、わ